

令和3・4年度始良・伊佐地区研究協力校「学力向上」 霧島市立牧之原中学校研究公開

1 研究主題

自ら学び考えを深め合う生徒の育成
～「学習の構え」の確立と「論理的思考力」の
育成を目指して～

2 研究発表

生徒の学習意欲や学びの質を高めるとともに、
生徒自ら学び、考えを広げ深め合う力を高める
ことができるようにするために、全職員で研究
に取り組んだことが紹介されました。研究内容、
具体的な取組については、以下のとおりです。



【研修係による研究発表の様子】

(1) 「牧中スタイル」の作成・実践

- ・ 研究の視点に基づいた指導過程の作成・実践
- ・ 「導入・展開・終末」の授業だけでなく、家庭学習にも言及
- ・ 生徒の取組状況に合わせた見直し・改善

(2) 「じこかん」による自主的・主体的な家庭学習への取組

- ・ 教科書・学習用具等を自己管理し、必要な分のみを持ち帰り、自己で考えて家庭で学習
- ・ 家庭学習を類型化し、生徒が自主的に効果的な家庭学習に取り組めるよう指標を提示するとともに、細やかな指導の実施

(3) 自己肯定感や自己有用感を高める教育活動の推進

- ・ 「分からない」が言える学級づくり
- ・ ストレスを軽減し、コミュニケーション能力を高める「SOSの出し方教育」の取組と活用

(4) 各教科において育成したい「論理的思考力」の明確化

- ・ 各教科で育成したい「論理的思考力」を全教科で作成
- ・ 日常の授業で「牧中スタイル」とともに実践、取組の継続

(5) 論理的思考力を身に付けさせるための授業の工夫・改善

- ・ 三角ロジック、根拠を基にした話合い、思考したことの共有等を意識した授業の実施
- ・ 検証授業を重ね、思考する場面や考えや意見の発表等を意識的に実施

(6) 学力アップセミナーの取組

- ・ 毎週水曜日、放課後25分間実施
- ・ 授業でできなかった「思考・表現」問題や演習問題、Navimaを活用した学習

3 公開授業

研究を具現化した検証授業として、濱崎てるみ教諭が1年生社会「世界の諸地域『北アメリカ州』」の授業を、福森遼太講師が2年生保健体育「球技『バレーボール』」の授業を行いました。

(1) 1年生社会「世界の諸地域『北アメリカ州』」

単元の中盤に位置する本時は、これまでの学びを踏まえ、「アメリカ合衆国の農業にはどんな特色があるのだろうか。」という学習課題を解決していく授業でした。生徒は、日本の畜産とアメリカの畜産を比較したり、アメリカの農業が盛んな理由について、ロイノート思考ツールの活用して自分の考えをペアやグループで交流したりしながら、課題解決に向けて取り組みました。



【1年生の公開授業】

(2) 2年生保健体育「球技『バレーボール』」

単元の終末に位置する本時は、「守備においていかにボールを落とさずに攻撃につなげていくか。」という学習課題のもと、授業が進められました。ICT機器を活用して、グループ内でポジションごとの役割や動きを確認し、ゲームで実践しながら、よりよいプレーにつながるように指向する生徒の姿が見られました。



【2年生の公開授業】

4 分科会

「『学習の構え』を確立する手立ては効果的であったか。」「『論理的思考力』を育成する手立ては有効であったか」という2つの視点から、授業研究が行われました。

グループ協議では、参加者が、授業参観で見取った生徒の学びや教師の働きかけ、ICT機器等の有効的な活用等から授業を分析し、研究の成果や課題、学習の構えや論理的思考力を育成する場の工夫、今後の展望等について意見を交わしていました。

参加者の感想から

〔研究発表について〕

- ・ 「牧中スタイル」として、取組を具体化し、職員間で共有し、全校体制で取り組んでいるのは、参考になると思った。
- ・ 生徒が学びに向かうために基本的な構えをつくることの大切さを改めて感じた。

〔研究授業について〕

- ・ 資料の活用とICT機器等の活用について、生徒に何を考えさせるのか、どのように導くのが大切であると思った。(1年生社会)
- ・ 生徒の主体的な姿やタブレットを活用しての話合い活動等、今後の参考にしていきたいものばかりであった。(2年生保健体育)

〔授業研究・分科会について〕

- ・ 授業で論理的思考力を高めるためにも、どのような工夫が必要であるか、アナログとデジタルの使い分け等、大変参考になることを学んだ。